

式 辞

山形県立米沢商業高等学校の令和2年度入学式は、出席者や式次第を大幅に変更しての実施となりました。保護者の方々と喜びを共にしたかったのですが、大変残念です。しかし、これは、みなさんの健康と安全を守ることを第一優先として判断したことですので、ぜひ理解してください。

ただ今、本校への入学を許可しました107名の新入生のみなさん、新型コロナウイルス感染症防止対策が取られる中、本校入学者選抜というハードルを乗り越えたものの、その後しばらく臨時休業となり、様々な不安、戸惑い、焦りがあったのではないかと思います。決して忘れることのできない春になったことでしょう。今の状況は必ず終息に向かいます。それを信じましょう。

改めて、みなさん入学おめでとう。私たちは、心からみなさんの入学を歓迎します。

本校は、今から118年前の明治35年に米沢市立商業補習学校として創立された、長い歴史と輝かしい伝統を持つ商業高校です。これまで、本校は地域に支えられながら多くの優れた卒業生を送り出し、その卒業生たちは地元の実業界はもちろんのこと、全国各地で活躍しています。

入学後、幾度となく聞くことになる校訓「至誠」と「進取」。これは大正11年に定められたものです。「至誠」とは真心であり、「進取」とは勇気を示します。これから始まる高校生活において、新入生のみなさんはその精神にもとづき、真心を持って誠実に、勇気を持って積極的に、何事にも取り組んでください。

みなさんがこれから生きていこうとする社会は、大きくかつ急速に変化しています。近年の想定外の自然災害の発生、新型コロナウイルス感染症の拡大、そして県民に大きな衝撃を与えた老舗デパートなどの例を見ても、そのことが実感されると思います。そのような予測困難な社会の中をみなさんは生きていかなければなりません。もちろん、個人でできることには限界がありますから、他人と協力しチームとして仕事を進めていくこととなります。そこで大切になるのは、人々の持つ異なる特性、意見や考え方の違いを認めること、つまり多様性を認めることです。そうすることにより、様々な視点が生まれ、議論が活発化し、チームの力が発揮されていきます。正解がない課題や、全く新しい発想が求められるような場合は、多様性の高いチームが成果を残していくのではないかと考えます。

そこで、みなさんにはこの米沢商業高校での学びを通して、変化する社会を生きていくため、多様性を認めた上で、チーム力を高める術を身につけてほしいと思います。

さて、すでに公表されている通り、今年度から5年間で本校は122年間のマラソンを走り終え、ゴールテープを切ることになりました。フルマラソンに例えれば、今ちょうど40キロ付近を走っているところでしょうか。残念ながらあと5年で、米商という校名が消えることとなります。これからいよいよラストスパートです。最後まで米商は、活気ある学校、魅力溢れる学校であり続けたいと思います。そのために、新入生のみなさんも協力してください。一人一人がそれぞれの目標に向かって努力することが、学校全体の活力につながります。新入生のみなさん、2・3年生と一緒に頑張りましょう。

それでは、みなさんの確かな成長を心から祈念しまして、式辞といたします。

令和2年4月22日

山形県立米沢商業高等学校長 佐藤 敬一